

佳作

ノック ノック カムヒア

とうてつ

ポトスライムがたくさん生える
または

復活するのを見たいと思った
目を開いて

水とのつながりを断つても
水はすぐ近くにある

私の中心にある

水とつながりさえすればすぐに
生き直せるって

それはそれは幸せな気持ちだけです、私はポトスライムを造
りたかった

朝ご飯を吐かなくてもいい日が続く

(何故なら朝ご飯を止めたから)

ぐっすり寝ても走らなくていい

空を見なくても青いとわかっていようように
皆と並びながら、意味はなく

私、ポトスライムを初めて枯らしてしまう

私の家には

窓がなかった

空気を吸うには外に出るしかなかった

でも 家の真ん中に

お湯とカップさえ、ありさえすれば

私はたぶん出て行かなくても済んだ

扉を除いて部屋の隅には扇風機と

写真パネルがかけてあり

忘れないように記憶をわけあう私と

たいらさんの肌は

まだ何も決めてはいないから

はためく

大昔のユニコーンのように

土色だ

指揮者の右足が台の上から落っこちて

それでも前を向き、続けなくてはいけない

その泥めいた仕種に私達目を奪われ続けて

真似出来たのかは別にして、私

部屋の壁、四角い風景の土地の名前を

もそもそとたいらさんに教えた

それらすべてに

36・8度の雨が降った

モクマオウの林

空からのヤエヤマ

エンジンルトランペットの下でおかつぱの

小さな私、と、誰か

他者の物が欲しかった世は終わらせて

風は

私の手を引き半径十メートルの意味ある全ての言葉に、
惰性

のルビを振らせる

遠かったような近かったような

ホントウ　　が結露した部屋の東側で

私一人で眠るのは恐くはなかった

ジャスミンのにおいは波状に来て

こねこのにおいも運ぶ

ただ、私以外にもう一人部屋にいて

一緒に眠るとき

私よりも先にその人が眠ってしまふことが

恐かった

私の知らない場所で、遡（さかのぼ）った時間に降った雨が
その人にとっては

幸せでなかったのなら、なおさら

ノック ノック

ユニコーン

カムヒア

いたら 激しく挨拶をしろ

扉ごと心臓に直接、せよ

私は昔からここにいた

泳げはしない水っぽい体をさらして

知ったほうが幸せ？なのか

知らないほうがよかった？のかは

知ってから

答えるべきだ！と

断言せよ私達が昔そうしたように

もう、決めてしまいたかった私

たいらさんと同じ答えがいいと、言ったら

36. 8度の雨は止んだ

それは、絶対に、私が、嫌、だった

違わなくては 生きてはいけない

まだ壁の内側に残してきた選択肢だけは

強気で、星が落ちる直前みたいに明るい

椰子の木の下の柘榴も百合も生えそうな程に

まぶしいのに
ポトスライムは、死にそうだ
互いに喪失を窺いながら
ろろろろろろと水を注ぐ間
私はそれだけで毎日、楽しいのに
皆はそれどころじゃないらしく
まだたいらさんまでは届かなかった